

館報 はだ



平成 29年 11月 1日 現在

世帯数	6,109戸
人口	15,775人
男	7,602人
女	8,173人

もったいない市

9月2、3日と波田支所前に『もったいない市』が行われました。この催しのモットーは「いらぬ人からいらぬ人へ」ですが、現実には本当にもったいない状況が見られます。どんなことを行っていたのかというと、波田地区の方々

の各家庭での不要品（食器類と本が主）を受付に出し、リサイクル出来る物は再利用、そうでない物は廃棄処分するのです。

廃棄処分がかなりの量を占めており、受付のテント裏に



受付の様子

リサイクルできる物はブルーシートに広げ、食器類は大皿・小皿・お椀・湯呑み・キップ食器に分類され、本はリサイクル本として、この『もったいない市』モットーのいらぬ人からいらぬ人へと、欲しい人が手に取ってリサイクル品を吟味していました。もらった人の中には「これから新生活するのに助かる」という人もいて、皆の

は10袋以上の破棄用袋がお昼の時点で一杯になっていました。

みな車に不要品を乗せ来所していましたが、駐車場が一杯になる程車で出入りしており、交通整理員が誘導していました。車を降りる人は、手さげ袋や人によってはダンボールを何箱も出していました。

スタッフも20〜30人はいたとはいえませんが、結構大変な作業で、皆協力し合い、受付で再利用出来ない物は不要品としてすぐ後ろのゴミ袋へガチャン、ガチャンと音をたて入れていました。



リユース市

ためになつている物もあることが分かりました。

破棄する物の中には、引越しやリフォームによる整理でやむなく破棄しなくてはいけない状況もあるが、3R（Reduce（減らす）、Reuse（再使用）、Recycle（再資源化））で欲しい人がどんどんもらつていき、ゴミの減量を進めれば、環境的に良い方向にいくと感じました。

17区 町内公民館 研修旅行

9月10日（日）、17区町内公民館主催の研修旅行が実施されました。この研修旅行は2年に1回実施され、17区町内公民館の最大事業でもあります。

今年度は「戸隠と善光寺参拝の旅」と銘打って子どもも含め33名の区民の皆さんに参

加いただき、9月に入ったというのに気温30℃でまさにまだ夏本番の中、楽しい研修旅行になりました。

まず戸隠神社中社にて参拝し、戸隠民俗館、忍者からくり屋敷等を見学しました。民俗館は江戸時代中期の建築で戸隠神社の年貢米を保管した穀倉であり、その後明治5年には戸隠最初の学校として使用されていたものを復元した建物です。2000点以上の民具等が展示されています。忍者からくり屋敷では迷路を通り抜け、部屋全体が斜めになった奥座敷までたどりついたり、手裏剣道場では「せんばん」という手裏剣投げに挑戦したりと楽しい時間を過ごし、長野市内のホテルにて、「地中海フェア」と銘打ったランチバイキングで、ステーキをメインに30種類以上の料理・デザートそれに飲物と予定時間を少し延ばしての楽しい親睦会となりました。

最後は善光寺に向かい、参拝や門前町での買物等それぞれが時間まで過ごしました。

今回は1日という時間の中で近年パワースポットとして吉永小百合さんのCMでお馴染みの戸隠神社奥社等まで行けませんでした。『悠久



戸隠神社・中社にて

の宇宙（ロマン）」といわれる戸隠、昔から一生に一度は善光寺参りと言われている善光寺と北信濃信仰の旅となりましたが、波田に住んでいる区民の皆さんには、いつでも行けるようでいて久しぶりに参拝できたという言葉がいたりました。皆さんそれぞれの名産品等を買って求められていました。

今回の研修旅行は、年代を超えて親睦とさらなる区民交流を図ることができ、公民館活動を通しての絆を今後も強くしていきたいと感じました。

水配人という仕事



水配人

私達が日々食べているお米は、どの様に作られているのだろうか知りたくて、私は水配人という仕事を経験しました。春5月初旬に田植えが始まって、10月頃までに稲刈りを終えるおおよそ5〜6ヶ月間、田圃に係るのです。水配人に田圃の水の管理を任せているのは全国的にも珍しいそうです。波田の開田地区の斜面には、30m〜100mの広さの田圃が整備されていて、4人の水配人が1人約100枚位の田圃の水の管理をします。田圃の水(みな)口の水門を開けて水を流入させ、そ

して田圃全体に水が行き渡つたら止水します。5月のゴールデンウィークの頃田植えをするのですが、その前に耕作者さんは、トラクターを使って、荒くれ・代掻きという土壌を耕す作業をします。後に水を入れても流出しないように畔を養生します。これからが水配人の出番です。田圃に1ヶ所付いている水門を開けて、田植えがしやすい程度の水を全体に行き渡らせます。水門の開け方にもよりますが、田圃に水を行き渡らせるには平均2〜3時間程かかります。約

100枚程の田圃にひととお米を入れるには3時間程です。少し休んでから2順目の見廻りに入ります。2順目の見廻りは1順目からすでに2時間以上経過しているから、今度は水門を止めていく作業が主となります。田圃にはそれぞれ性格があり、もう30分あるいは1時間、水を入れ続けなくてはいけない田圃があります。それらの田圃の止水は3順目にします。重要なのは水の流入と、必ず止水をしてから1日の仕事を終えるということなのです。

この様に毎日水を入れて、そして止めることを繰り返しながら稲の成長具合を見て、今日の天候を考え水持ちの良い田圃であるか良くない田圃であるかを考えながら畔を歩くのです。これを5月から8月末まで行います。朝の美しい空気を感じながら足が鍛えられているなあと思います。畔道と田圃には沢山の生植物も共存しています。オタマジャクシ・カエル・イトトンボ・アメンボ・イナゴ・バッタ・赤トンボ・ノビル・田ぜりそして多くの野草・日の出があり、風の日・雨の日・日光を浴びながら畔道を歩くのです。私はただの労働とは考えてはい



扇子田運動公園

10月の下旬は、毎週末となると台風の影響で雨降りが多かったため、朝から太陽が出ていると気分も晴れやかになります。家から程近い扇子田運動公園は遊具も充実していて、1才の息子は秋空の下で伸び伸びと遊んでいます。何組かの親子連れの方達との話も弾み、私がリフレッシュできています。自然豊かな松本の公園は木や緑も沢山あり、遠くには山の姿も見える最高の環境だと思っています。

扇子田運動公園



ません。稲を作るといふ文明、米という穀物に支えられた日本人という民族性を考えさせられます。畔道を歩きながら、もしかしたら私は歩く瞑想をしていたのかもしれない。



花は1年中、心の癒しに咲いてくれます。春は1

番に黄色の花の福寿草・水仙です。芝桜は色とりどりに咲き、じゅうたんのようです。新築の際にいただいた花ミズキの花は白とピンクで颯爽と立っています。そして5月頃ボタンが咲き、ツツジのオンパレードです。梅雨になり、アジサイ、アヤメが咲き、夏の暑い時期には、種から育てたマリゴールド・百人草が盛んで、百人草は秋までとても長い間咲き続け、家の中に飾ったりお彼岸にはお墓へ持って行ったり、知人にあげたりして、とても助かります。今年マリゴールドの苗を数人に分けてあげました。春に苗で買って来てプランターに植えたベコニアは、晩秋の霜の降りるまで咲き続け、毎日水をくれました。秋はあちこちでサルベリの花とシユウメイ菊の花を見ることが出来ます。これから菊が楽しみです。11月頃に一本の根から丸く大輪に咲く菊はみごとに美しさを、毎年玄関の外に飾っています。携帯の待ち受け画面に季節折々の花の写真を載せ、楽しんでいる毎日です。